

E.T.C. 「教育をタイムリーにチェンジする」



長野県総合教育センター通信

しののめ

2019/01/24
(平成31年01月号)
第117号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4 (企画調査部)

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail: kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

受講して学んだことを校内でアウトプット！	1
単元をつくろう⑨ (生活)	2
産業教育MIRAIフェアありがとうございました	3
センター研究協議会のお知らせ	4

受講して学んだことを校内でアウトプット！



研修講座「小学校プログラミング教育キックオフ」を受講いただいた先生の「総合的な学習の時間」での授業実践をご紹介します。

私たちの身の回りには数多くのコンピュータが活用されていることに気づき、プログラミングを実際に体験することを通して、コンピュータがプログラムで動いていること、プログラムは人が作成すること、コンピュータの得意なこととできないことがあることについて気付くとともに、コンピュータを活用していきたいという意欲を高めることを目標に全5時間の授業が実施されました。



* 単元の展開 *



★身の回りからプログラミングされているものを見つけよう！

- ゲームやテレビ、スマホなどコンピュータが使われているものがたくさんある。
- コンピュータはプログラムで動いていて、プログラムは人が作っているんだね。



★プログラムのしくみを学ぼう、体験しよう！

- 紙や体を使って順次、繰り返し、条件などのプログラムの仕組みを知る。
- コンピュータは、命令されたことをプログラムの通りに繰り返すことが得意。
- プログラミングはむずかしいと思っていたが、やってみると、意外と簡単で楽しい！



★プログラミングによって、新しいものを開発しよう！

- プログラミングされているものが増えていけば、生活がもっと便利になりそうだ。
- 自分もプログラミングで新しいものを開発してみたいな。

単元をつくらう⑨

生活編



生活科では、具体的な活動や体験を行うことは大前提だと言われているので、活動を中心にして授業を展開しているつもりだけれど、子どもたちが楽しそうに活動していても、「ただ遊んでいるだけ」にも見えてしまって…。

教師の用意した単なる体験や活動だけにならないように、子ども一人一人の「気付きの質の高まり」を意識しながら、単元づくりを進めることが大切です。生活科では、体験活動と表現活動とが繰り返されることで、活動の質は高まり、学びも深まっています。子ども自らが生み出す学習活動を大切に、単元をつくってみましょう。



平成30年度 教育課程編成・学習指導の基本（長野県教育委員会）p41より

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第1学年

【単元名】 あきとあそぶ（11時間扱い）

【育成する資質・能力】

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
遊びや遊びに使うものをつくる面白さ、自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。	身近な自然や物を利用して遊びを考えたり遊びに使うものを自分なりに工夫したりし、それをすなおに表現している。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「あきのさんぼみち」地域へ出て、秋の自然を味わった。
・秋ならではの木の実や植物、生き物を採集する活動。 ・季節によって変わる自然の様子に気付く。

生かす見方・考え方：面白いおもちゃを作ろうと、対象を自分との関わりで捉えること。

場面	学習活動（時間）	留意点
思いや願いをもつ	1 作りたいおもちゃのイメージをもつ（1）	おもちゃ作りへの願いや見通しをもつ場面 ☞子どもが集めてきた自然のものや用意した材料や道具をもとに 制作の見通し をもてるようにしましょう。 ☞教師の試作品を見た子どもたちは目を輝かせます。
	2 必要な材料や道具を準備する（1）	
活動や体験をする	3 願いの実現に向けて制作を行う（2）	個人で制作に没頭する場面 ☞整った制作環境（願いごとの班・活動スペース等）の中で子どもが願ったことを やり切れる ようにしましょう。
	4 制作したもので試し遊びをする（2）	試行錯誤する場面 ☞できたおもちゃを試したり、友と競い合ったりして、さらなる工夫を見いだせる場を設けましょう。 ☞繰り返し対象に関わる時間を保障しましょう。 ☞左ページの①～③の視点を意識しながら、活動に 没頭 できるようにしましょう。
5 さらに工夫を加えていく（2）		
感じる・考える	6 みんなで遊ぶ（2）	対象への気づきを表現する場面 ☞対象との関わりを表現する場を設け、気づきを自覚したり共有したりして、 気づきの質を高め ましょう。
	7 対象へどのように働きかけてきたか絵や言葉等で表現する（1）	
表現・行為する		

※過程：この4つの過程は順序が入れ替わったり複数の過程が同時に行われたりする場合もあります。

次単元へのつながり：「年長さんと遊ぶう」園児との交流する中で、手作りおもちゃの面白さを伝える。
・伝えたいことや伝え方を選ぶ。 ・園児と関わることのよさや楽しさが分かる。

気づきを自覚したり、関連付けたり、視点を変えて捉えたりすることで、気づきの質は高まり、生活科における深い学びの姿へとつながっていきます。

本単元における具体の流れ

「見て！ドングリがコマになっちゃった。」

あんな風にすればコマが作れるんだ。ぼくも作ってみたいな。

安全には留意しながらも、子どもが思いついたことをできるように、様々な工具や材料を用意することで、多様な気づきが生まれていきます。

互いにコマを回し合っているわ。どちらが長く回っているのか気になるのね。バトル場を用意してみようかしら。

丸いドングリを使っている友だちはよく回っているぞ。ぼくも丸いドングリで試してみよう。

比較、分類、関係付けの視点によって、分析的に考えるようになっていきます。

「どんな工夫をしたのか教えて。」

「細長いドングリを丸いドングリに変えてみたら、フラフラしないでよく回ったんだよ。」

何度も対象と関わりながら表現することを繰り返すことで、子どもは気づきを確かなものにしていきます。「こうしたらこうなった」を大切にすることで、因果関係がはっきりし働きかけた自分に対して、自己肯定感も高まっています。

産業教育MIRAIフェア2018

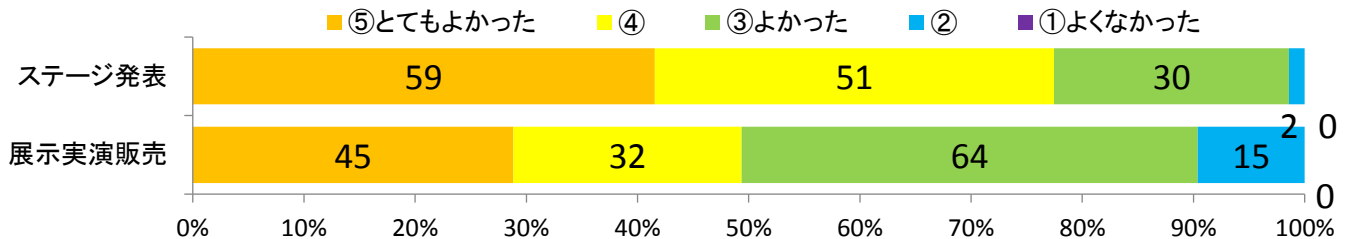
ここから未来へつなげよう！

～新たな学びで、未来を創る～

平成30年12月8日(土) 開催

県内の専門学科・総合学科の高校生、関係者226名の皆様にご来場いただきました。ステージ発表では、農業・工業・商業・家庭・福祉・総合学科の各分野で14団体が学習の成果を発表し、学習交流会では28団体が作品展示、実演、販売実習を行いました。専門学科・総合学科の学びを知ることで、未来を創造するきっかけとなりました。

発表内容に対するアンケート評価 ※グラフ中の数値は人数



参加者の感想

機械やゲーム、プログラムのことを知ることができてよかった。高校生に教えてもらってプログラムが動いた、楽しかった。(キッズプログラミング講座参加小学生)

高校生で、こんなにすごいことが出来ることを知って、高校に行くのが楽しみになりました。実演もあり、興味を持つ事ができて良かったです。(中学生)

どの展示も素晴らしく、高校生の頑張りが伝わってきました。各校の取組を知ることができて、良い機会でした。(中学生保護者)

地域社会と連携して学ぶ姿は、未来に向けた姿だと思いました。学びに自信を持っている姿が、素晴らしい。(高校職員)

同じ地域貢献でも、それぞれの学科の視点からそれぞれの取組があって、今後の参考になった。自分たちの活動が多くの方に見て、知っていただけて良かった。(高校生)

高校生の発想の素晴らしさ、問題を解決する粘り強さ、素晴らしいものでした。他学科の学びと合わせると、もっと広がりができると思いました。(来賓)



発表参加校

下高井農林
丸子修学館
松本工業

中野立志館
小諸商業
南安曇農業

須坂創成
諏訪実業
穂高商業

長野工業
岡谷工業
松商学園

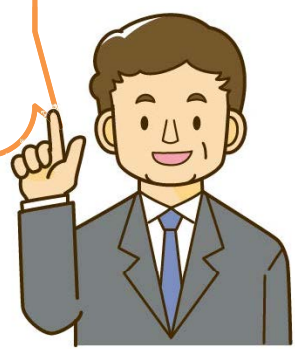
更級農業
駒ヶ根工業
エクセラシ

屋代南
下伊那農業

上田千曲
木曾青峰






今年度の内容
をご案内します。
ぜひご参加くだ
さい。



チーム課題研究の発表 (10:00～12:00)

□ 分科会の概要

分科会	内 容
<p>A 希望研修を学校づくりに活用する OUTPUT の在り方 ～小学校外国語活動・外国語～</p> 	<p>「研修講座で学んだことを自分だけのものにしておくのはもったいない。でも、どうやって同僚の先生方に伝えればいいのかなあ？」 研修で学んだことの活用につなげる OUTPUT について、小学校外国語活動・外国語を窓口にして一緒に考えましょう。 (写真は、校内研修でのアクティビティーの様子です)</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動・外国語のミニ講座を体験します。 ・追跡調査を行った学校の実際の様子を紹介します。 ・体験したことを、どのように校内で広めていくかを協議します。 <p style="text-align: right;">教科教育部 専門主事 高橋 廣貴 他</p>
<p>B 小学校プログラミング教育 ～校内研修の在り方について～</p> 	<p>「プログラミング教育って、具体的に何をすればいいのだろう？」 「何か特別なスキルを身に付けなければいけないの？」 各種研修で学んだけれど、実際に自校でプログラミング教育を進めるためにはハードルが高いという声を聞きます。校内研修の在り方も含めて、総合的に考えていきましょう。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング講座を体験し、各教科の学習でプログラミング的思考を働かせている子どもの姿を発見します。 ・校内研修で、先生方が気づきを深めていく様子を紹介します。 <p style="text-align: right;">教科教育部 専門主事 松本 俊一 他</p>
<p>C 探究的な学びに 焦点を当てた カリキュラム・マネジメント</p> 	<p>カリキュラム・マネジメントはどのように推進していけばよいのでしょうか。学校教育目標達成のために、地域の素材をもとに各教科をつなげ、探究的な学びを進めるカリキュラム・マネジメントについて、手法の一つを体験しながら、理解を深めましょう。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの理論について理解を深めます。 ・地域の素材をもとにしたカリキュラム・マネジメントのモデルを紹介します。 ・オリジナルワークシートを活用して、カリキュラム・マネジメントのモデルづくりを体験します。 <p style="text-align: right;">教職教育部 専門主事 向井 真弓 他</p>
<p>D 「子どもを支えるために」 ～子ども理解を考える～</p>  <p>※研究テーマ 「チームとしての学校をサポートするために」を変更しました。</p>	<p>「この子が安心して楽しく学ぶには何をどのようにしたらよいのか？」 「そのために、この子をどのように理解したらよいのか？」 すべては子どもの笑顔のために… 子ども理解のポイントを一緒に考えましょう。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解のポイントをまとめたリーフレットの紹介 ・情報交換 等 <p style="text-align: right;">生徒指導・特別支援教育部 専門主事 染川あゆみ 他</p>





お申し込みは、
2月8日までに、
教頭先生を通じて

当センターH.P.より


お願いします。

こちらから
お申込みい
ただけます



<p>E 各校におけるICT活用と推進のためのポイント ～初めての活用を支援～</p> 	<p>ICTを活用した授業改善や充実が求められ、機器の導入が進められています。そこで、授業での教師によるICT活用と児童・生徒によるICT活用を紹介し、「まず試してみる」という初期の活用方法や、授業での効果的な活用を推進するためのポイント、校内研修のあり方等を一緒に考えましょう。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用している学校の取組から先進的な事例を紹介します。 ICTを使っていく上での課題や効果、学校内で活用を推進する方法を考えます。 <p>情報・産業教育部 専門主事 高橋 幸久 他</p>
<p>F 平成の教育を ふりかえる</p>  <p>※研究テーマ 「平成の教育改革の変遷」 を変更しました。</p>	<p>平成の終わりまで、あと4ヶ月。「平成最後の〇〇」が流行している今、総合教育センターも平成最後の研究協議会に「平成の教育改革の変遷」をまとめてみました。</p> <p>学習指導要領の変遷、平成に生まれた新教科や新しい教育活動、平成の教育に大きく影響与えた事件等、全国の動きから、長野県の学校数や児童・生徒数の移り変わり、長野県教育のトピックスまで、この30年間の様々なデータを用意してお待ちしております。</p> <p>平成の30年間を振り返り、今まで大切にしてきたことをどう守っていくか、どんなことを大切に新しい時代の教育を切り拓いていくか、一緒に考えましょう。</p> <p>教科教育部 専門主事 小町谷 聖 他</p>

全体会・講演会 会場：講堂 (13:00～16:00)

<p>テーマ：平成の教育改革をふりかえる</p>	
<p>全体発表</p>	<p>「平成の教育をふりかえる」</p>
<p>講演</p> 	<p>「次の時代の日本社会と、これからの学校教育に期待すること」</p> <p>講師：波頭 亮氏 (株)XEED代表</p> <p>マッキンゼー&カンパニーを経て、幅広い分野における戦略系コンサルティングの第一人者として活躍を続ける、波頭氏。</p> <p>著書「AIとBIはいかに人間を変えるのか」では、すべての生産活動をAI(人工知能)が行い、生きていくためのお金はBI(ベーシックインカム)で賄われる時代を予測する。</p> <p>波頭氏の描く、平成が終わった次の時代とは？ そのような時代に生きる子どもたちのための教育は どうあったらよいのか？ そして、日々一人一人の子どもたちの今と向き合う私たちは、 波頭氏の描く未来とどう向き合うのか？</p>